**（公社）高松市歯科医師会 学術講演会**

**在宅生活を支えるために**

 **～口腔ケアの可能性～**

**高松市社会福祉協議会**

**社会福祉士　大川　裕子 先生**

**（歯科衛生士）**

**日　時：平成29年3月18日(土)　　19:00～21:00**

 **場　所：高松市歯科救急医療センター　４Ｆ　大ホール**

 **参加費：無　料**

**◆ 初めに ◆**

　　訪問の仕事がしたくて始めた介護の仕事。歯科衛生士の経験をもとにケアマネジャーになり、ケアプランを作成していったとき、一番後回し、もしくは少しも歯科の問題に触れられない現状を知る。利用者だけでなく、家族や介護者、同じケアマネジャー仲間にその重要性を知ってもらいたいと考えるようになる。しかし、なかなか医療との連携が取れず、数年が経過。最近になり医療連携が進んできたものの、高齢者の在宅生活を支えるために、歯科ではまだまだできることがたくさんあると感じている。

* **在宅高齢者の現状 ◆**

　　在宅で生活している高齢者の家庭では、老々介護、認々介護といわれるように、高齢者が高齢者を介護したり、認知症の夫婦が互いに介護し合っていたりする。また、若い家族が同居していても仕事についている人が多く、家族の介護力に大きな期待ができない状況がある。また、目の前の介護や認知症の周辺症状の対応に手間がかかり、口の中まで気が回らない状態である。おのずと利用者の口腔内は不衛生になり、食物残渣による誤嚥性肺炎を頻繁に繰り返すなどの問題が発生する。

　　介護職員やケアマネにも口腔ケアに関する知識が不足しており、その意義を家族に説明できずにいる。しかし、適切な介護方法や口腔ケアを実施することで、全身状態が改善していくことを実感する。

* **まとめ ◆**

　　さまざまなかかわりの中、口腔ケアを行うことで、利用者の身体機能や認知機能が改善されることが実感できた。しかし、誰に、どのようにアプローチをかけるのが一番効果的なのか、いつの段階で実施するのがよいのか試行錯誤の状態である。口腔ケアがよいことは分かっていても、それを介護者一人が担うのは難しい。家族、医療関係者、介護関係者などがチームとなってかかわることが重要である。また、元気なうちから口腔ケアの重要性について教育する必要性を感じる。そして、歯科医院に通院できなくなったときは、今度は自宅へ医療を届け、口腔ケアで在宅生活を変えてほしいと考えている。

《ご　略　歴》

香川県生まれの香川県育ち。

高校卒業後、香川県歯科技術専門学校に進学し、歯科衛生士となる。いったん仕事を離れるが、訪問歯科をしたいと思い模索。しかし、その当時ほとんどなかったため介護の仕事に方向転換。訪問介護員として高齢者の自宅を訪問。その後ケアマネ試験に合格。ケアマネジャー、日常生活自立支援事業の専門員などをしながら、社会福祉士、精神保健福祉士の資格を取る。現在はケアマネジャーと生活困窮者の相談窓口業務の両方を行っている。ケアマネジャーとして高齢者のケアプランを立てているが、一番後回しになりがちな口腔ケアの有効性をみんなに知ってもらいたく、メルマガなどで情報を発信している。本職以外では、成年後見人やNPOで刑余者の支援を行っている。

**参　加　申　込　書**

**地域保健Ⅲ部 学術講演会**

**『 在宅生活を支えるために ～口腔ケアの可能性～』**

**平成29年3月18日（土）　　19:00～21:00**

|  |  |
| --- | --- |
| 勤　務　先 | 氏　　　　　名 |
|  |  |
|  |  |
|  |  |
|  |  |
|  |  |
|  |  |

**3月15日（水）締め切り**

**高松市歯科医師会（事務局FAX:087-851-1120）までご返信願います**